

令和 3 年度農林水産データ管理・活用基盤強化事業
農機 API 共通化コンソーシアム第 3 回事業検討委員会
議事概要

日 時：令和 4 年 2 月 28 日（月） 13：00～16：00

開催方法：Microsoft Teams によるオンライン開催

出席委員：澁澤委員長、西村委員、川村（周三）委員、安場委員、平野委員、土’方委員、
斎藤委員、丸田委員、山ノ上委員、川口委員、藤盛委員、戸谷委員、藤村委員、
宮原委員、榎委員、村田委員、川村（隆浩）委員、田中委員、塩見委員、安原委
員、杉本委員、日高委員、林委員、青木委員、野田委員、深津委員、竹崎委員

【ポイント】

1. 澁澤委員長より、本事業は生産者目線から見た技術導入、技術普及が本命であり、行政目線からは、関係者がリスクを背負いながら社会実装に向けた最初の一步を後押しする施策と位置付けられる。そのことを踏まえて議論を進めてほしい旨を伝達。
2. 議事次第に沿って以下の報告・説明を実施
 - ・コンソ事務局（農機研）：令和 3 年度事業全体概要
 - ・各 WG の座長・進行管理役・デロイト担当者：各 WG の進捗状況・成果
 - ・デロイト担当者：API 基盤構築における先行事例調査結果、API 標準仕様書、API 利用規約、API 接続チェックリストの検討状況
 - ・コンソ事務局（農機研）：接続検証の状況、成果報告書の構成と成果物の公表方法
3. 事業検討委員からは、「農機のデータ連携で成果をまとめた点は評価できるが、これからは農業におけるデータ利活用の本番である」、「環境問題や気候変動などの解決に貢献できるデータも API に含める等、世界的にも評価できる API となるよう継続的な改善が必要である」等の講評を受けた。また、本年度の成果報告書の構成、成果物の公表方法に関する事務局方針について確認を行った後、了承された。

概 要：次第に沿って各 WG の進捗・成果、コンソ全体の進捗・成果を報告。その後、成果報告書の構成と講評方法、次年度の公募内容、今後のスケジュール確認を行った。各委員からの質疑応答等の概要は以下のとおり。

【挨拶】

- 農研機構農機研の大谷所長より挨拶。これまでの取組にご協力いただいた関係者の皆様に感謝の旨を伝達。年度末の最終取りまとめに向け、委員には引き続き助言・指導をお願いしたい旨を伝達。

【委員長報告】

- 東京農工大学特任教授の澁澤委員長より、本日の会議は農業機械へのオープン API 実装のスタートを切ることが目的であること、本事業は息の長い事業になり、農業分野でおそらく数年から 10 年程度の時間を要する取組であることを説明。生産者目線から見た技術導入、技術普及が本命であり、行政目線から見た社会実装は、リスクを背負いながらの最初の一步を後押しするものであることを踏まえて議論を進めてほしい旨を説明。

【令和 3 年度事業全体概要報告】

杉本委員、野田委員より令和 3 年度事業全体概要を報告。

(特段の意見はなかった。)

【協調データ項目の特定、標準仕様案の策定】

API 基盤構築における先行事例調査結果についてデロイト担当者より報告。

各 WG の進捗状況・成果について各 WG の座長・進行管理役・デロイト担当者より報告。

API 標準仕様書の策定方針・検討状況についてデロイト担当者より報告。

(特段の意見はなかった。)

【接続検証の状況報告】

林委員、野田委員より接続検証の状況を報告。委員からの主な意見は以下のとおり。

- 農機のデータ連携でここまでまとめることができた点は評価できる。ただし、厳しい言い方になるかもしれないが、農業者にとっては、これでようやくスタートラインである。これからは、私たちが API を活用してその良し悪し判断していくことが必要で、その結果の対外発信が重要。また、今後 API を活用していくと様々なトラブルが起きることが想定されるため、今後も継続的に改善が必要。また、経営規模が大きくなればなるほど、データ分析を行った上での対応が必要。データが収集されても各自が分析できない限り、技術の向上にはつながらない。
- 今後は本事業の成果と併せて、生じた課題についても情報を発信していくことが重要。また、どの程度の収量があれば、いくら単価で利益が出るのかという情報を出すために、数字を明確に示すデータ連携が必要になっていくと考える。
- 丸田委員からのご発言にもあったとおり、まだスタートラインでここからどのように取り組んでいくのが重要。今後は農業者のためだけではなく、環境問題や気候変動などの解決に貢献できるデータも API に含めるなど、日本だけでなく世界的に評価される API にしていくことが必要。
- 様々な立場の委員からコメントをいただいた結果をまとめると、まだ終わったわけではないもののベクトルとしては良い方向に進んでいる、また、この 1 年の取組でデータ

利活用のスタートラインに立った点は評価して良いと考える。

- 澁澤委員長より、「1年間苦勞して取り組んだメーカー側の意見も聞く必要がある」として農機メーカーへコメントを照会。
 - ほ場農業機械では、位置情報、作業時間、燃料消費量について取組を行い、令和3年度中に一応の決着はできたと考えている。
 - 関係企業の間で令和4年度取組についても申し合わせをしている状況。
 - しかし、これからは普及済みの技術だけを対象にするのではなく、今後のあるべき姿を見据えた議論が必要と考える。普及済みの技術を対象にメーカーが主体となって議論すると開発の考え方や優先順位などが入ってきてしまうため、足並みを揃えるのも難しい。産官学で公正な議論をして、データの標準化の在り方を議論すべき。
 - 標準化データの実装時期については、農機メーカーの開発進捗等によるので、そこから先は競争領域として統一させる必要はない。
 - また今後は、生データにとどまらず、派生データの標準化に関する議論にも及ぶと思うが、農機メーカーは農業者がどのデータをどのように使いたいのかのニーズが見えていないため、農業者のニーズを明らかにしていきたい。それが農機メーカーにとってのデータ開放のモチベーションになると考えている。

【利用規約・接続チェックリスト】

利用規約・接続チェックリストについてデロイト担当者より報告。委員からの意見は以下の通り。

- API利用規約等の管理は誰が行うべきか。国家プロジェクトで動いているため、立ち上げ期においては農研機構の担当部署が管理することはあり得るが、数年以内には例えば日農工などへの民間委託がふさわしいと考えるが、事務局の考えを聞きたい。
 - 事務局：今年度に関しては利用規約、接続チェックリスト、API標準仕様書はコンソーシアム事務局で管理する方針とした。次年度以降も事業を継続できるようであれば、今後の管理主体を含め、維持管理の在り方を検討していきたい。

【成果報告書の構成と成果物の公表方法】

杉本委員より成果報告書の構成と成果物の公表方法について報告。委員からの意見は以下の通り。

- 成果物の章立てに記載のある「提言」について、想定している提言内容はあるのか、もし提言を出す場合には委員にも判断を仰いだ後に盛り込むべきである。
 - 事務局：本事項は昨年度策定されたAPIガイドラインと実情がそぐわない部分があった場合等に修正提案を行う場面を想定して章立てを作成したもの。現時点でAPIガイドラインに準拠した形で各種成果物の取りまとめができており、事務局

として、現時点では API ガイドラインの改訂要望などは想定されない。

- 成果報告書は農林水産省に提出するもので、生産者や農機メーカー、ICT ベンダーなどへの公表は予定してるのか。
 - 事務局：成果報告書は農林水産省を提出することを想定した構成としている。その成果報告書をそのまま公表する予定はないが、ユーザーにとって関心が高い情報も含まれるため、農機 API 共通化コンソーシアムのホームページに一部内容を修正した公表版を掲載する予定。業界全体で機運を高めていきたい。

【その他】

- 農林水産省の小林氏から 2 月 28 日に公開された次年度の公募内容を説明。また、規制改革の答申で定められたオープン API の要件化の対応方針について説明。
- 杉本委員から今後のスケジュールについて説明。
- 機械化協会主催の機械化フォーラムが 2022 年 3 月 22 日に開催されることを報告。

—以上—